

HASTIC

落下危険区域を拡大

CAMUI 安全対策まとめ

実験失敗

【札幌・大樹】大樹町多目的航空公園北側原野で8日に打ち上げられた道産ロケット「CAMUI(カムイ)」のパラシュートが開かず、機体が入っていた司令室のテントに落下したを受け、実験を行ったNPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC、札幌)は22日までに、今後の安全対策に関する報告書をまとめた。落下危険区域の拡大や、打ち上げ発射角度の見直しなどを盛り込んでいる。

今回の打ち上げ失敗は、機体は発射点からほぼ真横に25m離れた地点に設置された司令室に

落下。当時、司令室には発射操作を行ったスタッフから8人がおり、テント前には9人の学生が立っていた。

度から20度ほど拡大。司令室も真後ろに50m離れた。HASTIC副理事長は「失敗を教訓に、今後の打ち上げ実験で順書の整備」などと5点を挙げています。

の打ち上げは来年3月に同所で行われる予定。伊藤副理事長は「失敗を教訓に、今後の打ち上げ実験で順書を徹底したい」と話している。(北雅貴)

今後の安全対策について、報告書は①落下危険区域を発射点前方150

②打ち上げ前安全確認手順書の整備

同型のカムイロケット